

JANNI 連続講座開催記録（1994年～2019年）

第1回（1994年4月2日）

『インドネシアの芸術家との出会い』

小川 忠（国際交流基金）

第2回（1994年5月14日）

『インドネシアNGOへの民間協力の現状

～貧困農村地帯の所得向上プログラムとジャワ・サイを絶滅危機から救う
住民参加型熱帯林保全プロジェクトの試み～』

小川 典子（アジア・コミュニティ・トラスト [ACT] 事務局長）

第3回（1994年6月11日）

『漫談 ～インドネシアの海に生きる人々～』

鈴木 隆史（東南アジア漁業・漁民研究者）

村井 吉敬（JANNI 運営委員・上智大学教員）

第4回（1994年）

『インドネシア ～独裁政権下の労働運動～』

Adnan Buyung Nasution（インドネシア法律扶助協会 [YLBHI] 代表）

第5回（1994年10月28日）

『イリアンジャヤの海と人』

津留 歴子（JANNI 事務局長）

第6回（1994年12月9日）

『インドネシアのマスコミ弾圧とスハルト政権 ～「テンポ」発禁にみる
インドネシアのマスコミ事情～』

大川 誠一（『テンポ』誌東京支局）

第7回（1995年1月27日）

講師の都合により中止

1995年3月31日に第9回として実施

第8回 (1995年2月25日)

『エコツアーって何だ? ~環境破壊をくい止める手段となりうるか~』

門田 修 (フォトジャーナリスト)

第9回 (1995年3月31日)

『珊瑚の海、いのちの森はだれのもの?』

~イリアンジャヤの海と森に生きる人々の暮らしを脅かす開発~』

鈴木 隆史 (東南アジア漁業・漁民研究者)

第10回 (1995年5月19日)

『中部ジャワにおける適正技術プロジェクトの展開 ~APEXの事例~』

田中 直 (アジア民間交流ぐるーぷ [APEX] 代表)

第11回 (1995年6月8日)

『日本のODA、インドネシアの人権』

Asmara Nababan (インドネシアの開発に関する国際NGOフォーラム [INFID] 事務局長)

Nurina Widagdo (INFID 国際援助担当)

Didik Rachbini (国家開発企画庁 [Bappenas] コンサルタント)

第12回 (1995年9月29日)

『緑の革命とその後 インドネシア農業はどう変わったか』

加納 啓良 (JANNI 運営委員・東京大学教員)

第13回 (1995年10月26日)

『紙と土地収用~村にいきなりブルドーザーが! ~南スマトラの
パルプ工場紛争現地調査と住民代表来日緊急報告会~』

黒田 洋一 (熱帯林行動ネットワーク [JATAN])

村井 吉敬 (JANNI 運営委員・上智大学教員)

小泉 晨一 (衆議院議員)

南スマトラ州ムアラ・エニム郡ダラム村工場立地予定地住民代表ら3名 (匿名)

インドネシア環境フォーラム南スマトラ支部、法律扶助協会パレンバン支部、

同ジャカルタ支部より3名

インドネシア・ニュースレター 99 & 100

第14回 (1995年11月20日)

『交流会：イエニさんを迎えて ～スハルト政権に果敢に挑む学生運動家～』

Yeni Damayanti

第15回 (1996年3月2日)

『サシ ～インドネシア・マルク州に生きる慣習法 環境と調和するハルク村の知恵～』

鈴木 隆史 (東南アジア漁業研究者)

辻垣 正彦 (建築家、パプアニューギニアとソロモン諸島の森を守る会代表)

出雲 公三 (マングローブ植林行動計画)

第16回 (1996年4月22日)

『人々のエンパワーメント ～インドネシアのNGOの試み～』

岡本 幸江 (JANNI 運営委員)

第17回

不明 (記録が欠落)

第18回 (1996年6月8日)

『インドネシアの開発と人権～インドネシアNGOを迎えて～』

Abdul Hakim Garuda Nusantara (市民による調査とアドボカシー研究所 [ELSAM])

第19回 (1996年7月27日)

『ゴミから見えるアジアの大都市

交流会 ～ジャカルタのスラムに生きる人々を迎えて～』

Sofian Subardi ら7名 (ジャカルタ社会問題研究所 [ISJ])

第20回 (1996年9月25日)

『ウォーレスを追いかけて ～ウォーレスの歩いたマレー諸島～』

新妻 昭夫 (動物行動学者)

第21回 (1996年10月15日)

『日本から見たインドネシアの民主化とは?』

Arief Budiman (元サティヤ・ワチャナ大学教員)

第22回 (1997年1月20日)

『エコ・ツアーってなんだ？パート2 ～イリアンジャヤ体験記～』

村井 吉敬 (JANNI 運営委員・上智大学教員)

第23回 (1997年6月4日)

『東インドネシア・レンバタ島 ～ラマレラ村の女性の暮らし～』

江上 幹幸 (青山学院大学教員)

第24回 (1997年7月17日)

『インドネシアの「慰安婦」問題』

内海 愛子 (アジア太平洋資料センター (PARC))

岡本 幸江 (JANNI 運営委員)

第25回 (1997年10月25日)

『胎動するインドネシア ～ポスト・スハルトの行方～』

白石 隆 (京都大学教員)

第26回 (1997年10月28日)

『インドネシア民主化に果たすメディアの役割』

Goenawan Mohamad (ジャーナリスト、元『テンポ』誌編集長)

第27回 (1997年12月1日)

『インドネシアの上演芸能 ～ジャワとミナンカバウを中心として～』

風間 純子 (上智大学、大東文化大学教員)

第28回 (1998年3月17日)

『インドネシアの経済危機 ～高まる社会不安～』

Rizal Ramli (エコニット [Econit] 代表)

第29回 (1998年6月20日)

『世紀末のインドネシア経済 ～複合危機の構図～』

加納 啓良 (JANNI 運営委員・東京大学教員)

インドネシア・ニュースレター 99 & 100

第30回 (1998年10月29日)

『東カリマンタン・森林火災のツメ痕 ～森を奪われた人々の闘い～』

奥秋 聡 (東京大学大学院)

第31回 (1998年12月9日)

『インドネシア・光は見えるのか ～改革の新局面～』

Muhammad A. S. Hikam (インドネシア科学院 [LIPI] 研究員)

第32回 (1999年3月9日)

『困難の中のバティック地場産業』

関本 照夫 (東京大学教員)

第33回 (1999年5月18日)

『声をあげた先住民 ～インドネシア先住民民族会議報告～』

岡本 幸江 (JANNI 運営委員 東カリマンタン・プロジェクト担当)

鈴木隆史 (JANNI 運営委員・アジア漁業経済研究家)

第34回 (1999年6月19日)

『総選挙後のインドネシア ～社会・経済の動向を探る～』

Asmara Nababan (インドネシア国家人権委員会 [KOMNAS-HAM] 委員)

Revrisond Baswir (ガジャマダ大学教員)

第35回 (1999年9月1日)

『インドネシア・西カリマンタン ～小さなNGOが地域社会に与えた影響～』

Donatus Rantan (Yayasan Dian Tama 常務理事)

第36回 (1999年11月29日)

『融和と改革 ～インドネシア・ワヒド新政権の展望～』

佐藤 百合 (アジア経済研究所)

第37回

『東ティモール ～インドネシアによる「統合」神話を振り返る～』

古沢 希代子 (JANNI 運営委員・恵泉女学園大学教員)

松野 明久 (JANNI 運営委員・大阪外国語大学教員)

第 38 回 (2000 年 3 月 21 日)

『インドネシアの環境問題とNGOの取り組み ～スマトラ島の事例を中心に～』

Poltak Simanjuntak (環境モニタリング研究所 [LSPL] 代表)

Kennedy Amin (元 KSPPM スタッフ、専門漁業)

第 39 回 (2000 年 5 月 15 日)

『バリ観光と日本人』

山下 晋司 (東京大学教員)

第 40 回 (2000 年 6 月 17 日)

『インドネシア経済危機の構造と民主化』

水野 広祐 (JANNI 運営委員・京都大学教員)

第 41 回 (2000 年 10 月 12 日)

『援助はどこに消えたのか? ～インドネシアの汚職と債務～』

Binny Bintarti Buchori (インドネシアの開発に関する国際NGOフォーラム [INFID]

事務局長) および Sandra Moniaga (市民による調査とアドボカシー機関 [ELSAM])

第 42 回 (2000 年 10 月 31 日)

『インドネシアのテレビドラマとダンドゥット ～映画がつなぐインドと
インドネシアの不思議な関係～』

小池 誠 (JANNI 運営委員・桃山学院大学教員)

第 43 回 (2000 年 11 月 28 日)

『インドネシア・東ジャワのイスラーム』

酒井 由美子 (中央大学教員)

第 44 回 (2001 年 2 月 8 日)

『アチェ・分離独立をめぐる動きと展望』

西 芳美 (東京大学大学院)

第 45 回 (2001 年 4 月 10 日)

『国軍はいま何を考えているか ～危機・民主化・役割・権力争い～』

本名 純 (立命館大学教員)

インドネシア・ニュースレター 99 & 100

第46回 (2001年5月23日)

『カリマンタン少数民族の集団意識 ～カヤン族の階層制度、集団形成、現代地方政治への適応～』

奥島 美夏 (神田外語大学教員)

JANNI 講演会 (2001年6月30日)

『混迷のインドネシア：人権擁護運動の現状と課題』

Munir Said Thalib (行方不明者と暴力被害者のための委員会 [Kontras] 代表)

第47回 (2001年9月20日)

『インドネシアは分裂に向かうのか ～スラウェシからみた地方分権化～』

松井 和久 (日本貿易振興会アジア経済研究所)

第48回 (2001年9月26日)

『メガワティ新政権下の現実 ～インドネシアのNGOからの声～』

Zumrotin K. Susilo (インドネシアの開発に関する国際NGOフォーラム [INFID] 代表) および Binny Bintarti Buchori (INFID 事務局長)

第49回 (2001年11月16日)

『インドネシア・「住民参加」実現への挑戦 ～ODAダム開発の現場から～』

Poltak Simanjuntak (環境モニタリング研究所 [LSPL] 代表)

第50回 (2002年3月4日)

『インドネシアの実像は伝えられているか ～ニュース報道の現場から～』

上村 淳 (共同通信・元ジャカルタ支局長)

シンポジウム (2002年3月30日)

『まやかしの外国人研修制度・パート2 ～研修って、働くこと?～』

第51回 (2002年6月29日)

『インドネシアの地域紛争と市民社会』

Ifdhal Kasim (市民による調査とアドボカシー研究所 [ELSAM] 事務局長)

第52回 (2002年10月31日)

『ちょっとまじめにダンドウット ～インドネシアの大衆音楽～』

田子内 進 (東京大学大学院)

第 53 回 (2003 年 5 月 29 日)

『アチェ問題解決の糸口を探る ～国軍、GAM、そしてアチェ住民の立場から』

井上 治 (JANNI 運営委員・拓殖大学教員)

第 54 回 (2003 年 6 月 28 日)

『民主化か 反動か ～2004 年大統領選挙に向かうインドネシア～』

Hadar Nafis Gumay (選挙制度改革センター [Cetro])

第 55 回 (2003 年 10 月 1 日)

『インドネシアのイスラーム急進派をどう見るか』

見市 建 (京都大学非常勤研究員)

第 56 回 (2004 年 5 月 27 日)

『総選挙後の地方ガバナンスの行方 ～インドネシアの地方分権化と政府、NGO、住民の動き～』

武田 長久 (国際協力機構 [JICA] 国際協力専門員)

第 57 回 (2004 年 6 月 26 日)

『紛争をどう解決するか ～インドネシアの NGO の模索～』

井上 治、加納啓良、古沢 希代子、松野 明久 (JANNI 運営委員)

第 58 回 (2004 年 10 月 7 日)

『毒とバクダン ～インドネシアの珊瑚の海から～』

鈴木 隆史 (JANNI 運営委員・[有] 海工房)

第 59 回 (2005 年 2 月 27 日)

『インドネシア・始まった 1965 年事件の真相解明 ～被害女性レスタリさんは語る～』

Lestari (1965 年事件被害者調査会)

E. Rini Prasnowati (市民による調査とアドボカシー研究所 [ELSAM])

第 60 回 (2005 年 3 月 11 日)

『アチェ現地訪問報告 ～求められていること、私たちにできること～』

松野 明久 (JANNI 運営委員・大阪外国語大学教員)

インドネシア・ニュースレター 99 & 100

第61回 (2005年6月25日)

『インドネシア先住民の生き残り戦略 ～「伝統」をめぐる～』

浦野 真理子 (JANNI 運営委員・北星学園大学教員)

第62回 (2005年11月5日)

『インドネシア西ジャワ農村の子どもの暮らし』

関山 牧子 (東京大学教員)

第63回 (2006年6月24日)

『インドネシア一住民組織と制度改革 ～協治と発展は実現可能か。労働組合の事例などに基き～』

水野 広祐 (JANNI 運営委員・京都大学教員)

第64回 (2006年7月7日)

『インドネシアにおけるイスラムとジェンダー ～窮地に立たされるリベラル派イスラム～』

大形 里美 (九州国際大学教員)

第65回 (2006年11月2日)

『中部ジャワ地震 報告会』

松野 明久 (JANNI 運営委員・大阪外国語大学教員)

加納 啓良 (JANNI 運営委員・東京大学教員)

渡辺 正幸 (国際社会開発協力研究所代表取締役)

特別講演会 (2006年12月18日)

『パプアの声を知る ～「改革」後の人権～』

Benny Giay (ジャヤプラ・ウォルター・ポスト神学校教員)

第66回 (2007年6月30日)

『インドネシア外交とイスラム』

河野 毅 (政策研究大学院大学教員)

JANNI・法政大学合同ワークショップ (2007年12月1日)

『アブラヤシ・ブーム下インドネシアにおける民衆の権利』

Andiko (HUMA: 地域社会とエコロジーに基づく法改革連合)

Norman Jiwan (アブラヤシ開発ウォッチ [Sawit Watch])

第 67 回 (2008 年 2 月 8 日)

『インドネシアにおける *Jatropha Curcus* (ナンヨウアブラギリ) の状況について』

三本木 一夫 (神戸熱帯農業研究所)

第 68 回 [パネル・ディスカッション] (2008 年 6 月 28 日)

『高齢化社会とインドネシア ～介護福祉士・看護師がやってくる～』

ゲスト: Aik Kushayati (在東京インドネシア人としての意見)

JANNI 運営委員: 松野 明久 (制度の骨格について)、

川上 園子 (技能実習生・研修生の経験から)

床次 泰文 (介護の現場の話を聞くーその 2)

安部 竜一郎 (司会)

第 69 回 (東京女子大学と共催、2009 年 3 月 6 日)

『高齢化社会とインドネシア Part. II 外国人労働者が入るとケアの現場はどうか変わるか?』

講師: 上野 千鶴子 (東京大学教員)

背景説明: 松野 明久 (JANNI 運営委員・大阪大学教員)

コメンテーター: 染谷 俣子 (東京女子大学教員)

司会: 古沢 希代子 (JANNI 運営委員・東京女子大学教員)

第 70 回 (2009 年 6 月 27 日)

『21 世紀のインドネシア映画にみる愛と結婚』

小池 誠 (JANNI 運営委員・桃山学院大学教員)

第 71 回 (2009 年 11 月 13 日)

『インドネシア・第 2 次ユドヨノ政権の特徴と課題』

井上 治 (JANNI 運営委員・拓殖大学教員)

第 72 回 (2010 年 3 月 17 日)

『インドネシア民主化時代の政治的安定と暴力 ～ユドヨノ政権下の私的暴力の行方～』

岡本 正明 (京都大学教員)

第 73 回 (2010 年 6 月 19 日)

『バティックを作るジャワの女性労働 ～暮らしと仕事を考える～』

関本 照夫 (東京大学教員)

インドネシア・ニュースレター 99 & 100

第74回 (2011年2月26日)

『インドネシアにおける宗教的自由 ～女性の運命はどうなるのか?～』

Mutiara Pasaribu (ロータリー世界平和奨学生・国際基督教大学大学院)

第75回 (2011年6月18日)

『大規模アブラヤシ農園開発に代わる地域発展戦略の可能性

～インドネシア東カリマンタン州における「緩やかな産業化」～』

河合 真之 (東京大学特任研究員)

第76回 (2011年7月9日)

『新自由主義的搾取のための新たな道 ～インドネシアの経済回廊構想について～』

Dianto Bachriadi (土地問題情報センター [ARC])

第77回 (2012年1月21日)

『インドネシア：喝采を受けた反汚職運動の顛末 ～上がり続ける地方議員の給料と
衰退する運動～』

長谷川 拓也 (筑波大学大学院)

第78回 (2012年6月30日)

『どうなっているのかインドネシア農業 ～経済成長と米、砂糖、コーヒー、ゴム、
アブラヤシ～』

加納 啓良 (JANNI 運営委員・東京大学名誉教授)

第79回 (2013年1月13日)

『インドネシアにおける食のハラール』

阿良田 麻里子 (東京工業大学特任教員)

第80回 (2013年2月2日)

『豊かな森、インドネシアの森 ～メガ バイオ ダイバーシティの保全を目指して～』

Mustofa Agung Sarjono (ムラワルマン大学教員)

第81回 (2013年6月29日)

『死の順番待ち行列を短くしたい ～インドネシア・パダンで組積造建築物の
耐震性能を強化する試み～』

渡辺 正幸 (東京大学招聘研究員)

第82回（法政大学と共催、2013年12月2日）

『日本の投資と人権 ～中部ジャワの火力発電所建設問題をめぐり～』

Dianto Bachriadi（国家人権委員会 [Komnas HAM] 副委員長）

Hilma Safitri（土地問題情報センター [ARC] 研究員）

第83回（2014年7月5日）

『2014年インドネシア総選挙・大統領選挙とユドヨノ政権の10年』

増原 綾子（亜細亜大学教員）

第84回（2014年12月6日）

『ジョコウィ新政権への期待と不安』

井上 治（JANNI 運営委員・拓殖大学教員）

第85回（2015年2月21日）

『西カリマンタンの華人社会 ～スハルト体制期から現在まで～』

松村 智雄（東京大学学術研究員）

第86回（2015年6月27日）

『日本軍政下の性暴力 ～インドネシアの被害女性たちが語る～』

鈴木 隆史（JANNI 運営委員）

第87回（2015年9月26日）

『インドネシア「アクト・オブ・キリング」はなぜ起きたのか

～明かされない9・30事件の謎、消えない虐殺の記憶～』

松野 明久（JANNI 運営委員・大阪大学教員）

第88回（2015年12月19日）

『インドネシア・ラマレラの捕鯨文化と社会変化

～1994年から20年間の捕鯨・漁獲記録より～』

江上 幹幸（元沖縄国際大学教員）、小島 曠太郎（文筆家）

第89回（2016年6月25日）

『インドネシア泥炭地の火災とその社会の再生』

水野 広祐（JANNI 運営委員・京都大学教員）

インドネシア・ニュースレター 99 & 100

第90回 (2016年12月17日)

『スマトラ島、紙と油に消える熱帯林 ～泥炭湿地林の消失と住民に対する影響～』

内田 道雄 (フォトジャーナリスト)

第91回 (2017年4月17日)

『焼畑民にとってアブラヤシ農園開発・石炭開発とは何なのか』

寺内 大左 (東洋大学教員)

第92回 (2017年6月25日)

『シドアルジョ熱泥流噴出事故を覚えていますか』

安部 竜一郎 (JANNI 運営委員)

第93回 (2017年11月18日)

『写真で見るインドネシア ～ファインダーから覗いたアジア～』

吉野 文雄 (拓殖大学教員)

第94回 (2018年1月27日)

『利用される「住民の合意」～インドネシア ボルネオ島 アブラヤシ農園開発～』

浦野 真理子 (JANNI 運営委員・北星学園大学教員)

第95回 (2018年6月30日)

『レフォルマシ20周年のインドネシア ～経済と産業はどう変わったのか～』

加納 啓良 (JANNI 運営委員・東京大学名誉教授)

第96回 (2018年12月1日)

『ロンボク大地震のその後と学校支援プロジェクト ～ゆいツールの活動紹介とともに～』

山本 かおり (NPO 法人ゆいツール開発工房 [ラボ])

第97回 (法政大学と共催、2019年1月15日)

『パプアにおける土地利用権とアブラヤシ農園開発』

Dianto Bachriadi (土地問題情報センター [ARC] 代表)